

みやぎの

10月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.212 2024.10

紹介内容 (9/1~9/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 大崎農改：清水地区の高収益作物導入に向けて視察研修会が開催されました
 - 石巻農改：令和6年度第1回石巻地域普及活動検討会を開催しました
 - 美里農改：第1回美里地域農業普及活動検討会の開催
 - 亘理農改：令和6年度第1回亘理地域農業普及活動検討会を開催しました
 - 大崎農改：「未来塾 入門講座」を開催、大崎地域の農業について理解を深めました
 - 登米農改：令和6年度第1回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
 - 気仙沼農改：第1回気仙沼農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
 - 亘理農改：ソラマメ栽培研修会が開催されました
 - 美里農改：管内農業法人のライスセンター落成式が執り行われました
 - 仙台農改：令和6年度仙台地域農業普及活動検討会を開催しました
 - 大河原農改：第1回大河原地域農業普及活動検討会を開催しました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 4
 - 美里農改：第3回美里地区みやぎ農業未来塾「病虫害防除研修」を開催しました
 - 栗原農改：ルールガイド講習会が開催されました
 - 登米農改：農村女性のつどい移動研修会を開催しました
 - 大崎農改：目からウロコのハーブスイーツクッキング
 - 大河原農改：先進農業体験学習が始まりました
 - 亘理農改：先進農業体験学習開始式が開催されました
 - 仙台農改：農業大学の令和6年度先進農業体験学習が始まりました！
 - 美里農改：第1回美里4Hクラブ先進地視察研修会が開催されました
 - 石巻農改：宮城県農業大学の先進農業体験学習開始式が開催されました
 - 栗原農改：みやぎ農業未来塾 in くりはら「若者がやりがいをもてる農業を目指して」を開催しました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 8
 - 石巻農改：生育良好！石巻地域さつまいも現地検討会を開催
 - 石巻農改：令和6年度宮城県園芸振興大会で管内2団体が表彰されました
 - 大河原農改：村田町でそらまめの講習会と総会が開催されました
 - 栗原農改：栗原市果樹連絡協議会主催の視察研修会を開催しました
 - 登米農改：JAみやぎ登米そらまめ部会総合検討会及び栽培講習会が開催されました
 - 大河原農改：令和7年産たまねぎの播種作業を行いました！
 - 大河原農改：いちご花芽分化を確認しています
 - 気仙沼農改：JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の現地検討会が開催されました
 - 亘理農改：産地の維持拡大のためのしゅんぎく栽培講習会が開催されました

- 石 巻農改：小ねぎの品種説明会が開催されました
- 気仙沼農改：JA新みやぎ南三陸果樹生産部会の現地検討会が開催されました
- 気仙沼農改：南三陸町産食用大粒ぶどう「しおかぜ葡萄」の目揃え会が開催されました
- 登 米農改：JAみやぎ登米りんご生産部会視察研修会を行いました
- 栗 原農改：JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会抑制栽培現地検討会が開催されました
- 登 米農改：JAみやぎ登米ぼてと組合視察研修会が行われました
- 栗 原農改：みやぎRTK利用拡大コンソーシアム現地研修会が開催されました

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 気仙沼農改：水稻の適期刈取を呼び掛けました
- 石 巻農改：令和6年産米の高品質 石巻地域米づくり推進会議
- 石 巻農改：JAいしのまき大豆現地検討会および麦栽培講習会が開催されました！
- 石 巻農改：河南地区大豆現地検討会が開催されました！
- 大河原農改：水稻高温対策技術研修会を開催しました
- 亘 理農改：名取市で子実用とうもろこし現地検討会・勉強会が開催されました

⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

- 石 巻農改：令和6年度宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）において見事入賞！
- 気仙沼農改：令和6年産南三陸米出発式が開催されました
- 美 里農改：令和6年度宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）で、美里管内の出品牛が大活躍！

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

- 登 米農改：秋野菜作付講習会が開催されました
- 仙 台農改：仙台市の農業の未来の設計図「地域計画」の策定に向けて検討中
- 大 崎農改：伝統の味と技術の伝承 ～精進料理の技を磨く～

② 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

- 登 米農改：水稻における「グリーンな栽培体系展示ほ」の現地説明会を開催しました
- 登 米農改：登米市第1号の「みどり認定」農業者が誕生しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○清水地区の高収益作物導入に向けて視察研修会が開催されました

令和6年9月11日

大崎農業改良普及センター



色麻町清水地区では、農地整備事業を契機に担い手への農地集積や高収益作物の導入を行うことにしており、清水集落営農組合を中心に地域営農体制の検討を進めています。

令和6年8月25日に、視察研修会が開催され、清水地区の担い手等19人と色麻町、土地改良区、普及センターが参加し、水田を利用した園芸作物栽培に取り組む栗原市の2法人を視察しました。

視察先の農事組合法人平形農園（栗原市金成）と農事組合法人iファーム（栗原市志波姫）で加工用トマトやたまねぎ、キャベツ等、それぞれが導入している品目の収益性や労働力、経営における位置づけなどを説明いただきました。また、参加者から作業機械の利用状況や鳥獣被害の有無、法人の運営等について多数の質問があり、今後の地域営農の参考になったようです。

普及センターでは、今後も関係機関と連携して清水地区の地域営農体制の検討を支援していきます。

○令和6年度第1回石巻地域普及活動検討会を開催しました

令和6年9月11日

石巻農業改良普及センター



9月2日、石巻合同庁舎において、令和6年度第1回石巻地域普及活動検討会を開催しました。この検討会は石巻地域の普及活動の効率的かつ効果的な推進を図るため、農業者や市、JA等の外部検討委員を

招き、活動内容への御意見、御提案をいただく場となっています。

今回の検討会では、プロジェクト課題の中から「小ねぎ産地における次世代の人材育成」について重点的に検討し、昨年からの活動経過とこれまでの成果、今後の進め方について報告させていただいた後、委員の方々から建設的な御意見、御提案をいただきました。さらに他のプロジェクト3課題については進捗状況を報告し、年度後半の活動手法について御意見をいただきました。

今回の検討会で各委員よりいただいた御意見を今後の普及活動に活かし、計画的かつ効率的な活動を展開していきます。

○第1回美里地域農業普及活動検討会の開催

令和6年9月13日

美里農業改良普及センター



令和6年9月2日（月）に普及活動検討委員6人に出席いただき、第1回美里地域農業普及活動検討会を美里町の北浦梨ほ場と美里農業改良普及センターで開催しました。

はじめに、令和6年度普及指導計画の概要について説明した後、3つのプロジェクト課題の今年度前半の取り組みや今後の活動についてスライドで説明しました。

新規課題「北浦梨産地活性化に向けた、ICT活用による栽培の見える化」では、環境測定機器による気象データの収集、フェロモントラップによる害虫の発消長、経営管理などICTを活用した見える化による若手生産者の技術習得支援について説明しました。

課題「土地利用型法人の経営戦略の策定と持続的経営の展開」では、大崎市田尻の集落営農法人を対象とした、ライスセンターの整備やサツマイモ等高収益作物の導入など事業計画の見直し、人材確保など将来ビジョンの実現、持続的経営の展開等の活動について説明しました。

課題「堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の向上」では、涌谷町の麦類生産者を対象に、堆肥ストックヤードの設置を核とした小麦の生育中の堆肥散布や追肥方法の改善による収量品質の向上と町内産堆肥の有効活用への取り組みについて説明しました。

委員からは、「農業の栽培環境、病虫害発生、経営管理など職人技の見える化による若手生産者への経営継承は素晴らしい取り組みである。」「集落営農法人の具体的な経営目標、経営戦略への支援が必要である。」「耕畜連携による堆肥の有効活用、麦の収量品

質向上に期待する。」などの意見をいただきました。
普及センターでは、農業者や地域農業の課題解決を図るため、外部委員の意見や評価を参考にしながら、関係団体と連携して効率的な普及指導活動に取り組んでまいります。

○令和6年度第1回亶理地域農業普及活動検討会を開催しました
令和6年9月20日
亶理農業改良普及センター



令和6年8月28日に、今年度1回目の亶理地域農業普及活動検討会を開催しました。この検討会は、当普及センターで取り組む普及指導活動の実施状況について、外部有識者等から活動手法や内容などの評価と課題解決に向けた助言をいただくため、年に2回開催しています。

現地の検討では、岩沼市内のハウスにおいて、メロン「クールボジャ」に関する活動を紹介し、実際の栽培状況を見ていただきました。その後、普及センター会議室に場所を移し、重点的に支援している活動について、進捗状況や活動成果などを説明しました。

委員の方々からは、評価される点として、①技術継承に向けたマニュアル作りやさつまいもの育苗では、途中で起きた予期せぬトラブルに迅速な対応を行ったこと、②ほ場整備地区において、担い手への法人化支援や地権者等関係者への合意形成を目指した話し合いを丁寧に行っていること、③若手いちご生産者に対して、気候変動に応じた栽培管理技術の再構築を行っていること、が評価されるとのご意見をいただきました。また、今後の活動に対するご助言もいただきましたので、これからの普及活動に生かしてまいります。

○「未来塾 入門講座」を開催、大崎地域の農業について理解を深めました
令和6年9月24日
大崎農業改良普及センター



大崎管内で先進農業体験学習を実施している農業大学校学生を対象に、令和6年9月13日みやぎ農業未来塾入門講座を開催しました。今回は、大崎地域の農業への理解を深めることを目的に、大崎市岩出山、鳴子温泉地区の農業法人経営者や新規就農者からお話を伺いました。

講座では、自ら生産したそばを使い蕎麦カフェを経営する農業法人、繁殖牛経営を行う新規就農者、そして主食用米・飼料用米のほか野菜栽培の取組により地域の農地を守ろうとする農業法人を回り、視察を行いました。いずれの講師からも、「様々な人や分野と関わりを持って、視野を広げてほしい」、「将来の農業の担い手として頑張ってもらいたい」等、激励の言葉をいただきました。

学生たちは、学校生活ではなかなか話を伺う機会がない、法人経営のノウハウや就農後の苦労話、中山間地域の農業等多岐にわたるお話を直接聞くことができ、有意義な講座となったようでした。

○令和6年度第1回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
令和6年9月24日
登米農業改良普及センター



普及センターでは、効率的な普及活動の推進を図るため、農業者や関係機関等の外部検討委員で構成される普及活動検討会を年2回開催し、委員から普及活動への評価をいただいております。

今年度1回目の普及活動検討会は、令和6年9月3日に登米市豊里町を会場に開催しました。検討会では、登米市内で近年作付けが拡大し、重点活動として支援している露地ピーマンの作付けほ場を視察した後、J Aみやぎ登米南部豊里店に移動し、令和6年度普及指導計画及びプロジェクト課題の上半期の活動等について、委員から様々な視点で意見や評価をいただきました。

普及センターでは、普及指導計画に掲げる「人と技術が織りなす活力ある登米農業」の実現に向けて、検

討会でいただいた意見や評価を踏まえながら、下半期の普及活動を関係機関と連携しながら進めてまいります。

○第1回気仙沼農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました

令和6年9月24日

気仙沼農業改良普及センター



普及センターでは、取り組んでいるプロジェクト課題の進捗状況や普及計画等の内容について、外部の方から検討・評価してもらうため、外部有識者を普及活動検討委員として委嘱し、年2回普及活動検討会を開催しています。今年度第1回目の検討会を令和6年9月2日に本吉郡南三陸町の入谷公民館及び近隣ぶどう栽培ハウスで開催いたしました。

今年度委嘱した普及活動検討委員6人に対して、プロジェクト課題対象者のぶどう栽培ハウスにて、今年度から取り組んでいるプロジェクト課題 No. 3「生食用ぶどうのブランド化による生産拡大」の活動状況を説明しながら、実際のぶどうの生育状況を見学し、意見をいただきました。

また、公民館では、プロジェクト課題 No. 1「担い手を核とした地域農業の継続・発展」、同課題 No. 2「枝もの用クロマツ栽培における若松の商品化率の向上」の説明を行い、委員からは生産性や販売面等からの質問や意見をいただきました。

普及センターでは、今回頂いた意見を踏まえ、効果的な普及活動の推進に努めていきます。

○ソラマメ栽培研修会が開催されました

令和6年9月25日

亘理農業改良普及センター



令和6年9月19日にソラマメの栽培研修会がJ Aみやぎ亘理南部営農センターで開催されました。当日は管内生産者4人が出席、関係機関からの出席もあり、普及センター講師とともに、10月から始まるソラマメ栽培について栽培の要点を確認しました。

研修会では、播種の時期と方法、春先の土寄せについて重点的に説明を行いました。病害虫防除面ではウイルス防除の観点からのアブラムシ防除、赤色斑点病防除に加え、昨年菌核病が発生したことから、関連する防除薬剤と合わせて、耕種的防除方法と農業について情報提供しました。

参加した生産者の方々は、今後の栽培に備え、管理作業について熱心に聞いていました。収穫期の摘心の必要性等の質問もあり、次作への生産者の意欲がうかがえる研修会となりました。

普及センターは、今後も園芸作物を含めた安定生産を支援していきます。

○管内農業法人のライスセンター落成式が執り行われました

令和6年9月26日

美里農業改良普及センター



令和6年9月18日（水）に、大崎市田尻の農事組合法人おおぬき彩土里（いろどり）ファームのライスセンター落成式が執り行われました。

（農）おおぬき彩土里ファームは、令和3年8月に法人化した土地利用型営農法人（耕作面積約80ha）で、地域農業の受け皿となっています。今回、農作業の効率化による収益向上や冬場の仕事創出のため、補助事業等を活用し、水稻・麦類・大豆の汎用乾燥機（70石）3台等を含むライスセンター（穀類乾燥調製施設）を建設しました。

法人の代表理事は、「無事にこの日を迎えられるうれしい。これからも地域農業の支えとなるように頑張っていきたい。」と意気込みを語っていました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携しながら、農業法人の運営と持続的な営農の実現を支援していきます。

○令和6年度仙台地域農業普及活動検討会を開催しました

令和6年9月27日

仙台農業改良普及センター



先進的農業者や市町村及びJ A等の担当者を検討委員として、より効率的かつ効果的な普及活動を展開していくための意見や評価をいただく、第1回仙台地域農業普及活動検討会を、令和6年9月6日(金)に開催しました。

はじめに、令和6年度の普及指導計画のプロジェクト課題No.3「次代を担う生産者の育成による梨産地活性化」の活動について、支援対象の利府町の梨ほ場において、現地検討を行いました。

梨ほ場の現地検討では、新技術として導入した「防鳥ワイヤー」や「天敵ダニ製剤」の支援状況について、プロジェクト課題リーダーと対象農業者から説明を行い、「防鳥ワイヤーは何人で設置したのか」など活発な質疑応答がなされました。

その後、J A仙台利府支店に移動し、検討を行いました。はじめに令和6年度普及指導計画の概要について説明した後、4つのプロジェクト課題「ほ場整備を契機とした営農体制の整備」、「ねぎの次世代担い手育成による産地の強化」、「次代を担う生産者の育成による梨産地活性化」、「水稻乾田直播栽培技術の定着による大規模土地利用型経営体の基盤強化」について、プロジェクト課題リーダーから活動状況について説明しました。

検討委員からは、「環境保全の取組や販売単価を意識した支援はとても良いと思う」、「栽培技術の指導資料はより広く情報発信したほうがよい」等の発言がありました。

普及センターでは、農業者や地域農業の課題解決に向け、いただいた意見や評価を参考に、関係機関と連携しながら普及活動に取り組んでいきます。

○第1回大河原地域農業普及活動検討会を開催しました

令和6年9月30日

大河原農業改良普及センター



普及センターでは、普及活動を計画的かつ効果的に推進するため、農業者や消費者、関係団体等の外部委員(普及活動検討委員)からご意見をいただく普及活動検討会を年2回開催しています。

令和6年9月3日に開催した第1回検討会では、村田町内のとうもろこし生産ほ場を視察していただきながら、とうもろこしの作期拡大による販売期間延長の取り組みについて説明を行いました。その後道の駅「村田」に移動し、令和6年度普及指導計画及びプロジェクト課題の上半期の活動等について、委員から様々な視点で意見や評価をいただきました。

普及センターでは、今回いただいた意見を踏まえ、さらに効果的な普及活動の推進に努めていきます。

②新たな担い手の確保・育成

○第3回美里地区みやぎ農業未来塾「病虫害防除研修」を開催しました

令和6年9月2日

美里農業改良普及センター



令和6年8月7日(水)に宮城県美里農業改良普及センターを会場として、第3回美里地区みやぎ農業未来塾「病害虫防除研修」を開催しました。

今回は、農薬の基礎知識(役割や安全性)を学ぶとともに、適切な病害虫防除への理解を深めるため、公益社団法人緑の安全推進協会の吉岡弘夫氏を講師としてお招きしました。

登録農薬の定義や安全性の配慮といった農薬を使用するうえでの基礎知識から、ローテーション防除や農薬マスクの種類と装着方法などの実務的な部分まで、幅広い内容について解説いただきました。

参加者からは「農薬の選び方や作用など基本的な知識を得ることができた」等の感想が寄せられ、これからは営農を続けていくにあたり、有意義なものとなったようでした。

普及センターでは、今後も未来塾の開催を通して新規及び若手農業者の栽培技術向上等を支援していきます。

○ルーラルガイド講習会が開催されました 令和6年9月3日 栗原農業改良普及センター



令和6年8月30日(金)、栗原市若柳公民館で、栗原市生活研究グループ連絡協議会の主催行事である「ルーラルガイド講習会」が開催され、会員17名が参加しました。

調理実習では、一迫の在住栄養士の佐藤直子氏を講師に招き、「栗原の旬の食材を使った時短料理」をテーマに、栗原市の特産であるズッキーニやパプリカ、かぼちゃを材料に、電子レンジを活用した時短料理を3品作りしました。

調理実習後の振り返りでは、今回の実習とは異なる味付けや、異なる調理器具を使った方法等、レシピのアレンジについてお話いただきました。また、自宅で栽培している参加者が多かったズッキーニについて、含まれる栄養と効能について説明をいただきました。

参加者からは、「地元食材の新しい食べ方を知ることができた。」「ピーマンやナスなどの野菜でも応用できそうなので、家で作ってみたい。」との声が聞か

れました。

普及センターでは、今後も同協議会の活動を支援していきます。

○農村女性のつどい移動研修会を開催しました 令和6年9月4日 登米農業改良普及センター



令和6年8月28日(水)、加美町において、アグリレディースネットとめ及び登米地区農村生活研究グループ会員を対象に「農村女性のつどい移動研修会」を開催し、女性農業者10人が参加しました。

この研修会は、登米市内の女性農業者に担い手として力を発揮していただき、農業政策に女性の声が反映されるようにするために、「学び、交流し、お互いを高めあうこと」を目的に開催したものです。

今回の移動研修会では、「女性のためのポータルサイト(ずうっと宮城)の宮城で輝く女性」で紹介されている、加美町の株式会社原グリーンサービスで、女性社長が活躍する生産現場を訪問し、女性の会社経営への参画と地域活性化に積極的に取り組む姿を学びました。

また、農家民宿花袋・天王の代表で、(農)やくらい土産センターの代表理事の加藤氏からは、農家民宿設立の経過や、土産センターの運営や課題について詳しく教えていただき、直売所でも丁寧な説明をしていただきました。

バス内での参加者の交流も図られ、充実した研修会となりました。

普及センターでは、今後も男女共同参画に向けた取組について支援を行ってまいります。

○目からウロコのハーブスイーツクッキング 令和6年9月6日 大崎農業改良普及センター





若手女性農業者や新規就農者を対象に、農村地域でいきいきと活躍する次世代リーダーの掘り起こしと、農業者間の交流を目的として、令和6年8月28日ハーブクッキング講座を開催しました。

今回の実習では、ハーブ工房まーじょらむ代表 阿部薫氏より、身近なハーブを使った手軽なスイーツとして、パズルを使った夏野菜キッシュとパパロア、ハーブコーディアルの作り方を教えていただきました。実習中は、初対面ながら各グループとも和気あいあいと作業が進み、順調に3品が完成しました。完成後は、写真を撮ったり、「キッシュならこんな野菜も合うかも」等、グループごとに感想を話し合ったりと、終始和やかに情報交換がされていました。意気投合し、連絡先を交換したグループもあったようです。

ハーブを使った手軽で美味しい料理の学びと仲間との会話で、とても満足度の高い内容となったようでした。

普及センターでは、今後も資質向上や仲間づくりをとおし、女性農業者等の活躍を支援します。

○先進農業体験学習が始まりました

令和6年9月11日

大河原農業改良普及センター



令和6年9月9日から10月11日までの33日間、宮城県農業大学校の1年生が先進的農家のもとで農業体験学習を行います。この「先進農業体験学習」は、学生が高度な生産技術や経営管理を学び、農業に対する理解と逞しい人生観を培うことを目的に行われています。

初日である令和6年9月9日に開始式が行われ、大河原管内で体験予定である農大生3名と受入農家が出席しました。式の中で普及センター所長から受け入れ農家に対する感謝と学生に対する激励の言葉を送りました。学生からは体験学習に向けた決意表明があり、それぞれの学習目標や体験学習に対する意気込みを聞くことができました。

普及センターでは、今後も農業大学校と連携した地域の担い手の確保・育成に向けた取組を進めていきます。

○先進農業体験学習開始式が開催されました

令和6年9月11日

亘理農業改良普及センター



9月9日(月)に亘理農業改良普及センターにおいて、農業大学校が主催する先進農業体験学習の開始式が開催されました。本学習は、農業大学校の1年生が、先進的な農業経営を実践されている農業者のもとで、33日間、農業技術や経営を学習するものです。

当日は農業大学校生9人と、受入農家の9経営体が出席されました。学生からは「実践的な栽培技術を習得したい。」「作業スケジュールの立て方について学びたい。」「緊張しているが、やる気でカバーしたい。」等の発表があり、体験学習に向けた熱意が感じられました。

普及センターでは、本体験学習が農業大学校生にとって亘理地域の農業への理解を深め、有意義な時間となるよう応援していきます。

○農業大学校の令和6年度先進農業体験学習が始まりました！

令和6年9月13日

仙台農業改良普及センター



令和6年9月9日(月)に仙台農業改良普及センターにおいて、農大生、受入農家、関係機関による先進農業体験学習の開始式が開催されました。

今年度、当管内では9名の受入農家にご協力いただき、9月9日(月)の開始式から10月11日(金)の終了式までの33日間、学生達は各農家で生産技術や経営管理などを学ぶ研修を行います。

開始式の中では、学生達から研修に臨むに当たっての3つの目標を発表いただき、生産技術の習得や、農業を行う上でのこだわりを学びたい、またコミュニケーションを積極的に取りたいなど、各学生の目指す姿に沿った目標が挙げられました。

そのほか、卒業後の進路、目標について発表する学生もあり、受入農家の方々からも、応援したいといった声が上がっていました。

普及センターでは、研修期間中に農家巡回するなど支援してまいります。

33日間の研修で、学生達が1つでも多くのことを学んでくれること期待しております。事故や怪我のないよう、頑張ってください！

○第1回美里4Hクラブ先進地視察研修会が開催されました

令和6年9月18日

美里農業改良普及センター



美里4Hクラブは、美里農業改良普及センター管内の若手農業者から構成され、クラブ員同士の技術研鑽や情報交流を目的に様々な活動に取り組んでいます。その活動の一環として、先進地視察研修会を開催しました。

今回は、石巻市北上町で土地利用型作物を中心に営農している株式会社ゆいっこと、同じく石巻市桃生町で農産物のEC販売などに力を入れている有限会社アグリサービス高勝を視察しました。

はじめに、(株)ゆいっこの今野茂昭取締役から、ほ場管理システム(KSAS)の活用によるスマート農業の実践及び農作業効率化の取組みについて御説明いただきました。KSASを活用したほ場ごとの作業進捗の記録と確認、食味収量コンバインによる収穫直後の食味成分分析など、効率化に向けた先進的な取組みを実践しているとのことでした。

次に、(有)アグリサービス高勝の高橋一代表取締役と高橋正信取締役から、農産物のEC販売や直接販売及び地域への農業の魅力発信と食育について、お話しいただきました。主食用米をインターネットで販売するようになった経緯や販売時のポイント、消費者目線の商品づくりなどについて御説明いただき、これからの農業は、作るだけで終わるのではなく、どうやって販売するかを考慮した経営戦略が重要になるとのことでした。

クラブ員から、「ほ場管理システムの使い方を職員にどのようにして教育したのか」「EC販売で自社製品をどのようにして検索上位に表示されるようにし

たか」といった質問が出され、とても有意義な研修会になりました。

普及センターでは、今後も地域農村青年の技術研鑽や情報交流を支援し、地域農業の担い手の確保及び育成に取り組んでいきます。

○宮城県農業大学の先進農業体験学習開始式が開催されました

令和6年9月25日

石巻農業改良普及センター



令和6年9月9日に石巻合同庁舎で、宮城県農業大学の先進農業体験学習開始式が行われました。先進農業体験学習は農業大学の1年生が9月9日から10月11日の33日間にわたり、先進的農業を実践する農業者のもとで研修を受けるものです。

今回、石巻管内で先進農業体験学習をする農業大学校生は、水田経営学部、園芸学部、アグリビジネス学部の3人で、それぞれ法人経営体で研修を行います。

学生3人からは栽培技術、経営者の心構えや経営の大切なポイント、大規模な出荷調整や販売までの流れなどを学びたい等研修をする上での目標の発表がありました。

この体験学習の中で、農業現場を肌で感じ、机上ではできない様々な経験をすることにより、10月11日の終了式で一回り大きく成長した姿を見られることを期待しています。

○みやぎ農業未来塾 in くりはら「若者がやりがいをもてる農業を目指して」を開催しました

令和6年9月25日

栗原農業改良普及センター



令和6年9月10日(火)に、栗原市一迫農村環境改善センターで、みやぎ農業未来塾 in くりはら「若者がやりがいをもてる農業を目指して」を開催し、新

規就農者、農業大学校生、農業士など 18 人が参加しました。

研修会では、第 5 回日本農業賞の個別経営の部で大賞を受賞した有限会社川口グリーンセンター代表取締役の白鳥正文氏を招き、「若者がやりがいをもてる農業を目指して！」と題して講演いただきました。白鳥氏のこれまでのあゆみ、法人設立にあたっての苦労、後継者育成などについてお話を伺い、参加者は真剣に耳を傾けていました。

その後、意見交換を行い、新規就農者や農業大学校生からは今後の抱負が述べられ、農業士からは激励と今後の助言についての言葉をいただきました。

④園芸産地の育成・強化支援

○生育良好！石巻地域さつまいも現地検討会を開催

令和6年9月2日

石巻農業改良普及センター



令和6年8月26日に石巻市河南地区の農事組合法人エコルファームのさつまいもほ場を会場に、普及センター主催による「石巻地域さつまいも現地検討会」を開催しました。農業法人や個人生産者のほか、JAいしのみきや自治体関係者など20名が参加しました。

普及センターからさつまいも栽培に適する土壌条件や肥料の影響、効果的な除草等の情報提供を行い、(農)エコルファームの後藤代表から耕種概要や栽培上の工夫などを説明したのち、生育状況の検討や情報交換を行いました。

検討会では試し掘りも行なわれ、最大で200g程度の大きさに肥大していることから、高収量が期待されます。また、参加者から「ほかの生産者の取組を見ることは勉強になる」「互いに情報を交換できるのが良い」など好意的な感想が聞かれ、好評のうちに閉会しました。

普及センターではJAいしのみきと連携して、こ

れからもさつまいもの生産振興に取り組んでいきます。

○令和6年度宮城県園芸振興大会で管内2団体が表彰されました

令和6年9月5日

石巻農業改良普及センター



令和6年8月30日に、JAビル宮城で宮城県・全国農業協同組合連合会宮城県本部主催の「令和6年度宮城県園芸振興大会」が開催され、農業者や関係者等144人が参加しました。その中で、園芸品目の生産、流通、加工及び販売等本県園芸産出額の向上に寄与する団体等の取組を称える表彰式が行われ、管内2団体が下記の各賞を受賞しました。

○第6回みやぎ園芸振興大賞表彰

大賞 農事組合法人おしお北部

○全農宮城県本部長賞表彰

特別賞 いしのみき農協スリムねぎ部会

表彰時コメント

・(農)おしお北部代表理事 大崎氏
「カルビーポテト株式会社と契約取引を始めて8年目。最初は3haから始まり、現在は30ha近くまで面積を増やしてきた。ここ3年はほ場の排水性の問題等課題はあるが、今後も賞に恥じぬよう努力を重ねていきたい。」

・いしのみき農協スリムねぎ部会部会長 高橋氏
「資材・燃料高騰や高齢化の中で、コストダウンや出荷数量の維持のための体制づくりをJA等と連携しつつ部会で検討している。本日は受賞でき感謝している。」

普及センターは、今後も園芸産出額倍増に向け関係機関一体となって石巻地域の園芸振興を推進してまいります。

○村田町でそらまめの講習会と総会が開催されました
令和6年9月5日
大河原農業改良普及センター



令和6年8月28日にJAみやぎ仙南村田地区そらまめ部会の講習会と総会が開催されました。

総会では、前作のそらまめの出荷実績の確認や今年度の事業計画の協議等が行われました。講習会では、今年度、オオタバコガによる食害やカルシウム不足によるしみ症の発生、乾燥による上位節の花落ち等が課題として見られたため、それらの対策について普及センターから説明を行いました。また、生産者が栽培の重要なポイントについて理解し、自身の栽培の振り返りを行えるように作成したチェックシートを配布し、活用を呼びかけました。

普及センターでは、今後も村田町におけるそらまめの生産量増加に向けた支援を続けてまいります。

○栗原市果樹連絡協議会主催の視察研修会を開催しました
令和6年9月6日
栗原農業改良普及センター



令和6年8月22日(木)、栗原市果樹連絡協議会会員等14名が参加し、登米市で適切な園地管理や栽培管理を行っているりんご生産者の栽培事例について視察研修を実施しました。

始めに園地の概要と主な栽培管理の状況について説明をいただきました。りんご栽培を始めた当初は普通樹栽培でしたが、徐々にわい化栽培へ改植するとともに、わい化樹を新植して規模拡大を図りながら1.4ヘクタールの栽培規模を維持しているとのことでした。また、適切な園地管理を行うとともに土着天敵類を活用して農薬の削減を図るなど、工夫を凝らしながら栽培している説明を受けました。

参加者は、園地を巡回して、栽培管理状況を視察しながら熱心に意見交換を行っており、大変有意義な

視察研修となりました。

○JAみやぎ登米そらまめ部会総合検討会及び栽培講習会が開催されました
令和6年9月6日
登米農業改良普及センター



令和6年8月27日にJAみやぎ登米そらまめ部会の総合検討会及び栽培講習会が開催され、部会員21名が参加しました。

総合検討会では、前作のそらまめ販売状況や出荷実績について、JA全農みやぎ園芸・生産振興部園芸販売課より説明がありました。講習会では、はじめに種苗会社より温度や土壌水分、花芽分化などそらまめの特性ほか「唐比の春(からこのはる)」の栽培管理について説明され、次に普及センターからは前作にアブラムシ類の媒介によるウィルス病が多くみられたため、その対策について説明した。

講習会では参加者が熱心に話を聞く様子が見られ、「栽培管理や防除方法について改めて学ぶことができ良かった」というコメントもありました。

普及センターでは、今後もそらまめ生産量増加に向けた支援を続けてまいります。

○令和7年産たまねぎの播種作業を行いました！
令和6年9月11日
大河原農業改良普及センター



大河原管内では、水田を活用した露地園芸作物としてたまねぎの生産を推進しています。普及センターはJ Aみやぎ仙南と連携し、たまねぎ生産者向けに栽培講習会やほ場巡回をすることで収量向上に向けた支援を続けています。

管内の令和7年産たまねぎの秋まき作型について、8月20日と29日にたまねぎ部会の7経営体が播種作業を行いました。大河原管内では、秋まきと晩秋まきの2つの作型があり、秋まきは8月下旬が標準的な播種時期です。播種作業はJ Aみやぎ仙南の作業機械を部会員が共同利用して行い、各自が10月下旬以降の定植に向けて育苗を開始しています。

普及センターでは今後も、地域一体となってたまねぎの生産拡大に取り組んでまいります。

○いちご花芽分化を確認しています

令和6年9月11日

大河原農業改良普及センター



大河原管内では、主要な園芸品目としていちごの生産を推進しています。普及センターでは、J Aみやぎ仙南と連携し、いちご生産者向けに栽培講習会やほ場巡回をすることで生産拡大に向けた支援を続けています。

管内の令和7年産いちごの定植時期が近づいており、9月5日から管内生産者の苗の花芽分化の検定作業を進めています。

花芽分化の検定は、促成栽培のいちごにとって大事な需要期であるクリスマス期間に確実に出荷するために必要な作業です。顕微鏡を使って、1株ずつ小さい生長点付近を確認するため、専門的な技術が必要な作業でもあります。普及センターの若手職員は、ベテラン職員のサポートを受けながら、着実に作業を進めています。

普及センターでは今後も、地域一体となって園芸生産額向上に取り組んでまいります。

○JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の現地検討会が開催されました

令和6年9月11日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年9月9日、J A新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会主催による9月お彼岸用菊類の現地検討会が開催され、生産者7人、株式会社仙花、J A職員、普及センターが参加しました。

現地検討に先立ち、株式会社仙花の担当部長から「全国的にお彼岸の出荷が遅れており、品薄状態のため是非とも早めに出荷して欲しい」との要望を受けた後、南三陸町内2カ所の現地ほ場を巡回し、花の生育状況、病害虫の発生状況について意見交換を行いました。

2ほ場とも、品種により花の生育状況が異なり、現在収穫している品種と平年より2週間は遅れている品種があり、遅れている品種について参加者全員が同じような状況とのことで、今後新しい品種を導入しないと毎年開花遅延で収入が減ってしまうといった切実な意見が出されていました。

普及センターでは、今後、現地に適した品種について情報を提供しながら、管内の花き販売額向上を支援していきます。

○産地の維持拡大のためのしゅんぎく栽培講習会が開催されました

令和6年9月11日

亘理農業改良普及センター



管内のしゅんぎくは、昭和40年代初め頃から亘理町を中心に栽培が始まり生産量は年間90トンにのぼり、周年出荷の産地として消費者・実需者からの人気も高く、主に京浜や仙台市場に出荷されています。

生産者の高齢化によりしゅんぎくの産地維持が課題となっていることから、当普及センターではJ Aみやぎ亘理と連携し、新規作付者、作付拡大者を支援しています。

令和6年8月6日にJ Aみやぎ亘理で開催されたしゅんぎく栽培講習会には、6人（新規2人、作付拡大4人）の参加があり、当普及センターから栽培技術の基礎等について情報提供しました。

参加者からは、「品種の選定方法」や「直は栽培と移植栽培の違い」等について質問があり、当普及センターからの助言に加えて、逢隈野菜部会長や軟弱野菜部長（いずれもしゅんぎくのベテラン生産者）からも懇切丁寧に説明をいただき、温かい雰囲気での講習会となりました。

当普及センターでは、定期的に行っているフォローアップ巡回と合わせて、既存の園芸産地の維持・拡大を継続して支援していきます。

○小ねぎの品種説明会が開催されました
令和6年9月13日
石巻農業改良普及センター



令和6年8月26日に、JAいしのまきスリムねぎ部会による小ねぎの品種説明会が開催されました。今回は、種苗会社から、冬季の栽培に適した品種の紹介があったほか、普及センターからは、登録拡大した農薬に関する使用方法や、部会で取り組む高温対策技術の実施状況について情報提供しました。

各説明を踏まえ、出席者らは、厳寒期に向けた品種選定の目安や、防除のタイミング、高温対策技術の効果や活用方法について議論を交わし、品質の高さが評価されているスリムねぎブランドの維持・発展に向け、意欲を高めている様子でした。

石巻農業改良普及センターは、小ねぎ産地の発展に向けて、引き続き支援していきます。

○JA新みやぎ南三陸果樹生産部会の現地検討会
が開催されました

令和6年9月18日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年8月7日にJA新みやぎ南三陸果樹生産部会の現地検討会が開催され、部会員7人が参加しました。当日は、南三陸町の部会員2人の園地を巡回し、りんご、なし、もも、ぶどう等の生育状況や病害虫の発生状況について確認しました。今年は着果量、果実肥大ともに良好との声が多かったですが、今後の栽培管理や病害虫防除の重要性について参加者同士で確認し合っていました。普及センターからは高温対策や病害虫防除等について情報提供を行いました。

普及センターでは、引き続き果樹の安定生産に向けた支援を行っていきます。

○南三陸町産食用大粒ぶどう「しおかぜ葡萄」
の目揃え会が開催されました

令和6年9月18日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年8月23日に、南三陸大粒ぶどう協議会主催のしおかぜ葡萄目揃え会が開催されました。「しおかぜ葡萄」は、南三陸町の生産者で構成される南三陸大粒ぶどう協議会が決定したぶどうの愛称です。協議会で定めている栽培要領や出荷基準に基づいて生産・出荷する「しおかぜ葡萄」は今年初めて販売されます。

今回の目揃え会では、「しおかぜ葡萄」の販売開始前に果実品質等の出荷基準や販売価格を統一したものとするため、会員で目合わせを行いました。当日はシャインマスカット、ナガノパープル、安芸クインなど約10品種が持ち込まれ、房の重さ、形、果粒の揃い、果皮色、糖度、食味などを確認し、「しおかぜ葡萄」として出荷できる基準を参加者間で確認しました。普及センターからはカラーチャートを使用した収穫適期の判断や収穫時のポイント等について説明を行いました。

「しおかぜ葡萄」は今後順次収穫され、町内外の農産物直売所などで販売される予定です。まだ生産量が少なく、流通量は限られますが、見かけた際には是非御賞味ください。

○JAみやぎ登米りんご生産部会視察研修会
を行いました

令和6年9月19日

登米農業改良普及センター



令和6年8月28日にJAみやぎ登米りんご生産部会視察研修会が開催され、生産者と関係機関担当者11人が参加しました。

視察先は青森県内にある種苗会社と生産者のほ場を視察しました。種苗会社では、最新の品種や現在のニーズなどについて話を聞くとともに、パンフレットに未掲載の品種の試食をさせていただきました。

生産者のほ場では高密度栽培の方法や栽培の実情について説明があり、具体的な利点や問題点などを知ることができました。りんご生産が盛んな青森県において、実際に園地を見学できたことや、現地の生産者に栽培方法について、直接話を聞いたことは、登米市のりんご生産者にとって貴重な経験になりました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携しながらりんご生産の支援を行ってまいります。

○JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会抑制栽培現地検討会が開催されました

令和6年9月25日

栗原農業改良普及センター



令和6年9月12日(木)、JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会の抑制栽培現地検討会が栗原市金成で開催され、生産者約15名が参加しました。

はじめに、栗っこズッキーニの主力品種の種子の販売店である(有)兵藤種苗商事の担当者から、今後の栽培管理のポイントについて解説いただきました。昨年に引き続き9月に入っても高温であるため、摘葉や追肥により株を充実させるよう助言がありました。

普及センターからは、抑制作型における病害虫防除のポイントについて解説しました。特に多湿条件で発生しやすい「褐斑細菌病」の症状もみられたため、摘葉による被害葉の除去や銅剤散布による防除を徹底するよう呼びかけました。また、抑制作型においては春作よりも高温多湿条件であるためアブラムシ類やハモグリバエが発生しやすく、この対策として防除間隔を短くして防除を行うよう助言しました。

最後に、JA新みやぎの担当者より、「栗っこズッキーニ」のブランド維持に向けた出荷規格の遵守について呼びかけがありました。

参加者からは、栽培管理に関する質問があり、講師と積極的な意見交換が行われ、有意義な検討会となりました。普及センターでは、今後も栽培技術向上を支援していきます。

○JAみやぎ登米ぼてと組合視察研修会が行われました

令和6年9月30日

登米農業改良普及センター



令和6年8月30日にJAみやぎ登米ぼてと組合視察研修会が開催され、組合員ほか、JA、普及センター合わせて11人が参加しました。

今回の研修会は、栃木県宇都宮市にあるカルビー株式会社新宇都宮工場を視察しました。新宇都宮工場では、「JAgabee」やポテトチップス類などのジャガイモを原料としたスナック菓子などを作っており、当ぼてと組合が生産している加工用ばれいしょも、新宇都宮工場に運ばれ美味しいポテトチップスに生まれ変わります。

はじめにカルビー株式会社の概要や企業としての取組等について説明を受けたのち、ポテトチップスができるまでの製造ライン全工程を見学しました。

また、見学後の質問・意見交換の場では、カルビー製品に関することや要望等、さまざまな質問にお答えいただきました。工場見学のみならず、この意見交換会も組合員にとってたいへん有意義で貴重な経験となりました。

○みやぎRTK利用拡大コンソーシアム現地研修会が開催されました

令和6年9月30日

栗原農業改良普及センター



令和6年9月18日(水)、みやぎRTK利用拡大コンソーシアム現地研修会が栗原市栗駒で開催され、関係者や生産者およそ70名が参加しました。

農業の担い手不足が進む中、省力化や生産性向上に向けて、県ではRTK基地局を整備し、令和5年度から運用を開始しています。また、RTK基地局を利用したスマート農業を普及拡大されるため産学官等が連携し、東北大学を事務局とする「みやぎRTK利用拡大コンソーシアム」を設立して、スマート農業技術の実証や推進を図っています。今回はこのコンソーシアムの現地研修会として、ヤンマーアグリジャパン株式会社の協力のもと、RTKシステムを利用したたまねぎの畝立て同時播種や除草剤散布の実演を行いました。

畝立て同時播種の実演では、RTKを活用することにより畝の長さが100mを超える大区画ほ場でも直線かつ正確に畝が施工され、参加者からは驚きの声があがりました。また、RTK搭載ドローンの実演では、RTKシステムによりドローンの操作経験が少ない職員でも正確に操作できることを確認しました。

参加者からは、RTKを活用した直播たまねぎの作業体系など踏み込んだ質問もあり、関係者と意見交換を行うなど、非常に有意義な実演会となりました。

普及センターでは、スマート農業の普及拡大を加速化させるため、今後も活動していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○水稲の適期刈取を呼び掛けました

令和6年9月3日

気仙沼農業改良普及センター

令和6年の気仙沼管内の出穂期は8月1日となり、「ひとめぼれ」の刈取適期は9月9日から16日(8月28日現在)と平年から早まることが見込まれています。このため、刈り遅れによる品質低下が懸念されることから、令和6年8月29日、第2回宮城県米づくり推進気仙沼地方本部技術指導部会を開催しました。会議では、普及センターから水稲の適期刈取の推進のほか、コンバインや乾燥機の点検、天気予報を確認して余裕を持った刈取計画を立てること、農作業事故に十分注意することなどについて関係機関に周知や指導の協力を依頼し、連携して取り組んでいくこととしました。

普及センターでは、今後も関係機関と協力して高品質米の生産に取り組んでいきます。

○令和6年産米の高品質 石巻地域米づくり推進会議

令和6年9月3日

石巻農業改良普及センター



令和6年8月22日(木)に石巻地方米づくり推進本部主催の令和6年度石巻地域米づくり推進会議が開催されました。

会議では高温対策普及展示ほの現地検討を行い、高温登熟による収量・品質低下を軽減するための乾田直播の取組について紹介しました。また、当普及センターから管内の水稲の生育状況と今後の栽培管理について説明し、関係機関との意見交換を行いました。今年度は高温により水稲の生育が早まっており、刈取適期は9月上旬と予想されています。それに合わせてJAではカントリーエレベーターの稼働を早めるなど対応をしています。

当普及センターでは、適期刈取の指導による品質の確保を目指し、石巻地域の良質な米づくり支援をしていきます。

○JAいしのまき大豆現地検討会および麦栽培講習会が開催されました!

令和6年9月4日

石巻農業改良普及センター



令和6年8月21日にJAいしのまき転作部会の大豆現地検討会および麦栽培講習会が開催されました。

大豆現地検討会では、管内の2ほ場(鹿又、沢田)を巡回し、今年の生育経過や今後の栽培管理について確認するとともに、令和7年から宮城県で本格的に栽培を開始する新品種「すずみのり」や資材メーカーの肥料の展示ほ場の生育についても確認しました。参加者は、「すずみのり」の品種の特徴や供試した肥料の説明に聞き入っていました。総合検討では、JA全農みやぎから「大豆の販売情勢について」、普及センターから「大豆栽培概況と今後の管理について」、資材メーカーから商品についての説明がありました。

麦栽培講習会では、JA全農みやぎの担当者から異種穀粒・異物混入の防止や精麦白度の向上、赤かび防除の徹底、小麦タンパク含量の安定など、実需者からの要望が紹介され、普及センターからは「今年産麦

類の作柄概況と次年度の管理について」情報提供し、麦類の品質向上に対する意識の向上を図りました。

普及センターでは、令和6年産大豆および令和7年産麦類の高品質・安定生産に向けて引き続き支援を行ってまいります。

○河南地区大豆現地検討会が開催されました！ 令和6年9月4日 石巻農業改良普及センター



令和6年8月27日にJ Aいしのみき転作部会河南支部の大豆現地検討会が開催されました。

大豆現地検討会では、河南地区の2ほ場（須江、鹿又）を巡回し、今年の生育経過や今後の栽培管理について確認しました。昨年に発生した高温乾燥による被害を受け、今年は暗渠管を閉める、FOEAS（地下水水位制御システム）を活用して土壤水分を確保する、などの工夫を行ったほ場の生育を確認しました。現在の大豆の状況は、高温傾向及び定期的な降雨により生育は順調に進んでおり、総合検討では普及センターから今後の病害虫管理と台風10号の対策について情報提供と、注意喚起を行いました。

当普及センターでは、令和6年産大豆の高品質・安定生産に向けて引き続き支援を行ってまいります。

○水稲高温対策技術研修会を開催しました 令和6年9月10日 大河原農業改良普及センター



宮城県では、地球温暖化に伴い高温傾向が続くことが見込まれる中、高温による収量及び品質低下に対応するため、県内9か所の農業改良普及センターに水稲高温対策技術普及展示ほを設置し、対策技術の実証及び普及に取り組んでいます。

大河原農業改良普及センターでは、柴田町内の農事組合法人で豚ぶん堆肥を施用して地力を向上させることにより稲の活力を維持し、高温による品質低

下を防ぐ取組を行っています。その取組を紹介・普及するため、令和6年8月23日に「水稲高温対策技術研修会」を開催しました。

研修会では、展示ほ場の生育調査結果に基づいた生育状況のほか、記録的高温年であった令和5年と同様に、今年度も出穂後の高温傾向が続いていることから、刈取適期が早くなることを説明しました。

今後も、管内で安定した水稲生産が行われるよう、研修会の開催や情報提供を行うことで、水稲生産者へのサポートを図って参ります。

○名取市で子実用とうもろこし現地検討会・勉強会が開催されました 令和6年9月24日 巨理農業改良普及センター



令和6年9月4日に、名取市で子実用とうもろこし現地検討会・勉強会が開催され、生産者や関係機関・団体等約110人が参加しました。これは、東北子実コーン生産者協議会が主催したもので、名取市文化会館で勉強会が開催された後、農事組合法人U.M.A.S.I.のほ場で現地検討会が開催されました。勉強会では、同法人の取組のほか子実用とうもろこしの現状と展望等について情報提供があり、また、現地検討会では、収穫作業の実演の他、ミニブースで機械等の紹介があつて、参加者は、子実用とうもろこしの理解を深めていました。

当普及センターでは、関係機関と連携して水田を活用した新たな作物の取組を支援してまいります。

⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

○令和6年度宮城県総合畜産共進会(肉用牛の部)において見事入賞！ 令和6年9月11日 石巻農業改良普及センター



令和6年9月6日から7日にかけて、みやぎ総合家畜市場において、一般社団法人宮城県畜産協会主催の「令和6年度宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）」が開催されました。

本共進会は、生産農家と関係者が一堂に会し、各地区から選抜されたトップレベルの牛の家畜改良の成果を競う大会です。磨き抜かれた牛の姿のほか、綱一本で牛を操る調教技術や、各地区ごとに統一されたカラフルなユニフォームも見どころでした。

いしのまき和牛改良推進組合からは、令和6年7月2日に開催された「令和6年度石巻地域肉用牛共進会」で選抜した、8頭が出品され、第2区（若雌の2）と第5区（父系群）において入賞することができました。

出品者の皆様、暑い中本当にお疲れさまでした。

（入賞者）※敬称略

○第2区 若雌の2

最優秀賞 第三席

ちはる号 八木一男（東松島市）

○第5区 父系群

優秀賞 第一席

ふくとも号 岩倉伴夫（石巻市和渕）

ちはる号 八木一男（東松島市）

すみれ号 遠藤好洋（石巻市桃生町）

○令和6年産南三陸米出発式が開催されました

令和6年9月26日

気仙沼農業改良普及センター



「南三陸米」は、JA新みやぎ南三陸地区管内（気仙沼市、南三陸町、登米市津山町）で生産された「ひとめぼれ」の1等米で、栽培履歴が確認されたお米です。

令和6年9月20日、南三陸米地産地消推進協議会による「南三陸米」の新米出発式が行われ、米穀販売業者、市町、気仙沼地方振興事務所などの関係者が参集し、新米の出発を祝いました。

式では、来賓の祝辞の後、出席者全員で新米のおにぎりを試食し、今年産の米の美味しさを味わいました。トラックに「南三陸米」が積み込まれると、関係者によるテープカットが行われ、拍手で見送りました。トラックは市内の店舗に向かい、さっそく店頭に商品が並ぶということです。

普及センターでは、今後も「南三陸米」の取組を支援していきます。

○令和6年度宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）

で、美里管内の出品牛が大活躍！

令和6年9月26日

美里農業改良普及センター



令和6年9月6日（金）～7日（土）に、みやぎ総合家畜市場（美里町）において、令和6年度宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）が開催されました。

各地域で選抜された黒毛和牛53頭が出品され、発育や体つき、毛質などの資質、種牛性などについて比較審査が行われました。

審査の結果、第1区若雌の1に出品された大崎市田尻の後上藤三氏のゆりあん6号が見事、名誉賞（農林水産省畜産局長賞、宮城県議会議長賞）に輝きました。

また、大崎市鹿島台の諸岡恵輔氏のさちふじ号が第2区若雌の2で最優秀賞第1席、大崎市田尻の菅原正博氏のやよい17号が第3区経産で最優秀賞第2席、みどりの和牛育種組合が第5区父系群で最優秀賞第1席（東北農政局長賞）を獲得しました。さらに、一昨年と昨年に続き、遠田地区が団体賞を受賞しました。

今回の素晴らしい成績が、令和9年に開催される全国和牛能力共進会北海道大会への励みになっていただけたらと思います。普及センターでは、今後も関係機関と連携して飼養管理技術の向上等を支援していきます。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○秋野菜作付講習会が開催されました

令和6年9月9日

登米農業改良普及センター

令和6年8月20日にJAみやぎ登米あがらいん産直部会の秋野菜作付講習会が登米市中田町で開催され、生産者24名が出席しました。

普及センターからは、昨年夏の記録的な高温・少雨により、秋野菜の生育に大きな影響を受けたこと、加えて、長期予報において、今後も高温が予測されていることを踏まえ、秋野菜の高温対策と害虫防除を中心に栽培管理のポイントを説明しました。

普及センターでは、魅力ある農業・農村づくりに向けて、直売向け野菜生産など、地域資源を活用した取組を継続的に支援してまいります。

○仙台市の農業の未来の設計図「地域計画」の策定に向けて検討中
令和6年9月12日
仙台農業改良普及センター



仙台市の将来の農業の姿を描く「地域計画」の策定に向けた座談会が開催されています。

地域計画の目標地図の作成に向けて、仙台市ではJA仙台の支店ごとに11か所で、今年1月から3月にかけて第1回目を、第2回目を6月から8月上旬にかけて開催してきました。

今回、沿岸部の六郷地区で8月26日に、七郷地区で8月28日に3回目の座談会を開催し、10年後の耕作者の名前を地図への落とし込みを行いました。

今回の座談会では、今後の耕作意向や担い手の有無など、細かな点まで確認しながら、地域農業の将来について話し合いました。

今年度中の地域計画の策定に向けて、各地区で協議が続いていきますので、普及センターとしては、各地域の将来の農業の在り方の検討を支援してまいります。

○伝統の味と技術の伝承 ～精進料理の技を磨く～

令和6年9月24日
大崎農業改良普及センター



生活様式の変化とともに、農村においても昔ながらの慣習や行事が変わっていく中で、精進料理は伝承の機会が失われつつあります。

地域や集落において口伝で受け継がれてきた調理技術や知恵などを見直し、地域に伝わる料理を紹介・情報交換するため、令和6年9月5日、生活研究グループ員等を対象に技術伝承研修会を開催しました。

研修会では、管内4つの地域（大崎市古川・西古川、加美町小野田・宮崎）ごとに、地場野菜や食材を持ち寄り、精進料理7～8品を調理しました。どの地域も、油揚げの味付けや盛り付け方、麩やこんにやくの使い方などそれぞれに特色のあるお膳が完成し、工夫した点や特徴について情報交換を行いました。

試食後には、加美町の大樹寺住職 天野氏より、精進料理についてご講話をいただきました。典座を含むこれまでの修行の経験や、日常の「食事を作る」「食する」ことにも通じる心構えのお話しに、会場から次々と質問が出るなど、参加者は、精進料理について一層理解を深めたようでした。

普及センターでは、これからも農村女性の活動を支援してまいります。

※典座（てんぞ）：禅宗寺院で、僧侶やお寺への参拝者の食事を司る役職

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○水稻における「グリーンな栽培体系展示ほ」の現地説明会を開催しました
令和6年9月10日
登米農業改良普及センター



普及センターでは、昨年度から、従来の環境保全米から一歩進んだ「グリーンな栽培体系」と生産者の選択肢拡大に向けた検討・検証を行っています。

令和6年度は、昨年度に続き、「慣行よりも減肥を行ったペースト二段施肥」3ほ場と、「非プラスチックコーティングの緩効性肥料栽培」及び「堆肥入り肥料+流し込み施肥」各1ほ場 計5ほ場を設置し、関係機関と一緒に調査を行っています。

8月29日、JAみやぎ登米稲作部会員を対象に、水稻の出穂後の調査と合わせる形で現地説明会を開催しました。うち「堆肥入り肥料+流し込み施肥」の展示ほには、部会員及びJAみやぎ登米の担当者7名が出席しました。

当日の調査では、「堆肥入り肥料+流し込み施肥」展示ほでは水尻でやや葉色が薄い傾向がみられたものの、全体の生育は周辺のほ場と同等であること、昨

年度の調査では肥料費も慣行の環境保全米を下回ったこと、などを説明しました。参加者は「グリーンな栽培体系」の普及の可能性を感じたようでした。

今後も様々な機会を通じて「グリーンな栽培体系」の周知を図ってまいります。

○登米市第1号の「みどり認定」農業者が誕生しました

令和6年9月26日

登米農業改良普及センター



令和6年9月5日に環境負荷低減事業実施計画等認定地方認定委員会が開催され、登米市内初となる環境負荷低減事業実施計画の認定（みどり認定）農業者が誕生しました。

認定された品目は「水稻」で「土づくりと化学肥料・化学農薬の削減を一体的に行う事業活動」に取り組む計画となっています。

今回認定された登米市中田町の門馬一郎氏は、これまでに「みやぎの環境にやさしい農産物・認証表示制度」に取り組んだこともあり、環境に配慮した農作物の生産に意欲的に取り組んでいる農業者です。

認定申請に当たり、普及センターとしても地域調整班と連携しながら、申請書の作成等について支援し、今回の認定に至りました。

普及センターでは、みどり認定について、更なるPRを行うとともに、環境負荷低減に取り組む農業者の支援を続けてまいります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.212

発行日:2024年10月21日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp